今夏開催！

14年ぶりにマッチプレーが復活！

14年ぶりにマッチプレーの復活！　まさに真剣勝負。今年の夏を熱くする大会が行われるのだ。ISPS（国際スポーツ振興協会）の主催により、8月1日から浜野CC（千葉県）で開催される男子ゴルフツアー「ISPSハンダマッチプレー選手権」がそれだ。大会の開催要項と出場有資格者が決定し、その発表会が先日、都内のホテルで行われた。

「ISPSハンダマッチプレー選手権」

「世界で戦える日本人選手を育てるためにもマッチプレーは欠かせない」

今大会の主催者ISPSはスポーツの振興を通して社会福祉活動や国際協力の活動を行う団体だ。今から29年前の1988年、現会長の半田晴久氏がブラインドゴルフ倶楽部（現・日本ブラインドゴルフ振興協会）を設立、日本で初めてブラインドゴルフを紹介したことがそのスタート。

以来、半田会長はスポーツが持っている「希望を生み出し、人々を動かして社会を変革する力を信じるとともに、世界平和を追求する強力なツールとなることを願って」さまざまなスポーツへの支援活動を行っている。

ゴルフに関してISPSは、昨年まで「グローバル化への対応」「スポーツの社会貢献」「ゴルフによる地域興し」の3つのテーマのもと「ISPSハンダグローバルカップ」を開催してきた。

日本の男子ゴルフ界を盛り上げる

「ISPSハンダマッチプレー選手権」はそのグローバルカップの競技方法を変更、マッチプレー競技として新たに開催するもの。マッチプレーで行われるツアートーナメントは75年から2003年まで実施されていた「日本プロゴルフマッチプレー選手権」以来14年ぶりとなる。

今回マッチプレーを採用したことに関して、半田会長は、

「ゴルフの原点といわれるマッチプレーの火を絶やしてはいけないと思っていた。どうして14年間もやっていないのかとJGTO（日本ゴルフツアー機構）に聞いたら、テレビ放映の枠にはまりにくいからだというので、それならテレビがなくてもいいじゃないかと考えたのです。世界で戦える日本人選手を育てるためにはマッチプレーが一番です。日本の男子ゴルフ界を盛り上げ、活性化させるためにも今回の大会が大いに役立つのではないかと思っています」

と説明する。

一方、ゴルフ評論家の宮崎紘一氏も、

「日本のプロが世界に後れを取っている大きな理由の1つに、勝負に対する執着心の薄さがあります。これを養うのに現状のストロークプレーでは難しい。しかし、勝負の原点であるマッチプレーなら、それを身につけることが可能です。後がないマッチプレーは技術、駆け引き、闘争心、精神力、マネジメントなど全ての要素が必要な、いわば格闘技であり、そうした大会が誕生したことは、これからのプロ、特に世界を目指す若手にとって大きな飛躍のチャンスになることは間違いありません」

と今大会開催の意義を語る。

「決勝まで勝ち抜ける体力とメンタルを鍛えて頑張りたい」**谷原秀人**

「1、2回戦をしっかり勝って、その先につなげたい」**藤本佳則**

賞金総額は国内最高の2億1000万円

大会には、2016年開幕戦から2017日本ゴルフツアー選手権までの国内獲得賞金によって新たに設定した「ISPSハンダマッチプレー賞金ランキング」に基づく8人のシード選手とそれ以外の96選手が出場。8月1、2日に96選手による1、2回戦を行った後、勝ち抜いた24選手とシードの8選手が9月6日からの3回戦以降を戦い、10日に優勝決定戦及び3位決定戦を行う。賞金総額2億1000万円は現在ある総額2億円の5大会を上回る国内最高額だ。

「HEIWA・PGMチャンピオンシップが賞金総額を3億円にしようとしたら、1つの大会が突出すると他のスポンサーが困るといってJGTOが断ったそうなんですよ。もったいない話だなと思いました。それはいきなり上げるから。そこで今回はちょっとだけデベソを出しました。今年の2億1000万円を来年は2億2000万円、その翌年は2億3000万円と少しずつデベソを大きくしていけば、将来はヨーロッパやアメリカからもいい選手が来るようになるかもしれません」（半田会長）

浜野GC

優勝すれば賞金王がぐっと近づく

記者会見にはISPSの所属プロである谷原秀人、藤本佳則が出席した。ちなみに谷原はランク2位でシード選手となっている。プレーヤーの立場から谷原が、

「5000万円という優勝賞金は優勝すれば賞金王がぐっと近づくし、昨年シードを落とした選手でも4位までに入れば一発でシード復活のチャンスになります。ですから、選手は皆、この大会をメインにして目の色を変えてやってくるでしょうね。こういう大会はめったにないので、本当に楽しみです。ハンダグローバルカップは2年続けて予選落ちしてしまいましたが、今回はそれがないので決勝まで勝ち抜ける体力とメンタルを鍛えて頑張りたいと思っています」

と言えば、藤本も、

「僕は谷原さんとは違って1回戦からの出場なので、1、2回戦をしっかり勝って、その先につなげたいです。半田会長にはいつも大変お世話になっているので、恩返しではありませんが、こういう時にしか頑張っている姿を見せることができないので、大会をいい状態で迎えられるように準備を進めていきたいです」

と意気込みを語った。

現在のところ大会には2人の他にも、池田勇太、宮里優作、小平智、石川遼など日本を代表するプレーヤーが出場を予定している。ファンの心を熱くする戦いが期待できそうだ。